

日時：令和7年7月25日（金） 13時30分～15時30分

場所：北信合同庁舎 202・203会議室

【委員】

区分	委員名（敬称略）	役職等	備考
農業者	佐藤 公敏	長野県農業経営者協会 飯水支部長	欠席
	江原 宏晃	長野県農業士協会 北シン支部長	
	西野 三恵子	長野県農村女性マイスター協会 前下高井支部長	
消費者	西山 真弓	信州湯田中渋温泉郷 女将の会ゆのか副会長	欠席
農業関係 団体	齊藤 重雄	ながの農業協同組合 みゆき地区筆頭理事	
	上野 広樹	中野市農業協同組合常務理事	部会長
農業委員	河野 嘉代	長野県農業委員会女性協議会 北信支部長	欠席
流通	塩崎 仁志	株式会社 R & Cながの青果 中野支社長	
市町村	有賀 裕介	中野市経済部農業振興課長	代理出席 牧野課長補佐
	春日 直樹	飯山市経済部農林課長	代理出席 小林課長補佐
	計 10 名		出席 7 名

1 開会

【北信農業農村支援センター技術経営普及課 千野博敏課長（以下、千野課長）】

それでは定刻になりましたので、ただいまから、長野県食と農業農村振興審議会促進地区部会を開会させていただきます。

進行の方を務めさせていただきます。農業農村支援センター技術普及課長の千野と申しますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは初めに北信地域振興局三森局長からご挨拶を申し上げます。

【北信地域振興局 三森和子局長（以下、三森局長）】

本日は長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会を開催しましたところ、皆様ご多用のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また日頃より県行政へのご理解とご協力、またそれぞれのお立場で、北信地域の振興にご尽力をいただいておりますことに、重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本年は5月に北信管内を中心とした降雹と強風により、ぶどうを中心に大きな被害が発生いたしました。例年になく早い時期の大規模な降雹被害ということで、被害に遭われた皆様におかれましては、心よりお見舞いを申し上げます。

北信地域振興局といたしましては、市町村やJAと連携して技術情報の提供や被害を受けた園地の追跡調査等の支援に取り組んでいるところでございますが、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

さて、食と農業農村振興計画は、平成18年に議員提案により可決されました、長野県食と農業農村振興の県民条例に基づき、全ての関係者が一体となって施策を総合的かつ計画的に推進するため策定しているものでございます。

今年度は2027年を目標年といたしました第4期計画の中間年に当たる年でございます。

北信地域は果樹やきのこ、水稲など様々な作物を産出し、新規就農者を含む若い世代の農業者も多い、県内でも有数の農業地帯でございます。

地域の農業者、流通関係者、消費者行政関係者が一堂に会し、それぞれの視点からご意見をいただけることは、北信地域の未来を考える上で非常に意義深いことと考えております。

これまでの取り組みの成果と課題を振り返るとともに、計画期間の後半に向けまして、今後の方向性等について委員の皆様から率直なご意見、ご提言を賜ればと思います。

本日の会議が、地域の皆様の知恵と力を結集し、北信地域の農業・農村・食を次世代にしっかりと繋げていく機会となりますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

#### 【千野課長】

ありがとうございました。

続きまして議長選出でございます。

地区部会の設置規程第4の3によりまして、会議の議長は部会長が務めることとなっております。

前回、地区部会の設置規定第4号によりまして、部会長に中野市農協の佐々木委員を選出しておりましたので、後任の上野委員に部会長をお願いしたいと思ひます。

それでは、上野部会長は議長席の方へご移動をお願いいたします。

#### 【上野広樹委員（以下、上野委員長）】

JA 中野市で経済担当常務をしております上野です。今回部会長ということで委員長をお願いしますので、大変不慣れではありますが、お願いいたします。

限られた時間ということで、短時間の中で有意義な会議になるようにということで、円滑に進行できるようによろしくお願いいたしますと思ひます。

それから今年度は、第4期5ヶ年計画の中の3年目ということでありまして、中間の答申となるということ、それと前年度の取り組みの実績と今年度の実行計画、これを踏まえまして県全体および北信地域の目標達成や、農業農村の発展に向けて政策や取り組みなどに対する、ご意見、それからご提言をお願いしたいということであります。北信だけがっていうところじゃありませんけども、まずは自分たちのこの北信地域の農業がより発展していくように、本日お見えのそれぞれの皆さんの立場のところで、忌憚のない活発な発言をいただきたいと思ひますので、よろしくお願いいたしますと思ひます。

それでは次第に沿って、(1)の第4期長野県食と農業農村振興計画の北信地域令和6年度取り組み実績および令和7年度実行計画について、事務局から説明をお願いいたします。

#### 【北信農業農村支援センター 高橋所長（以下、高橋所長）】

どうも皆さんこんにちは。

私は北信農業農村支援センター所長の高橋と申しますけどお願ひいたします。

まず初めに、事前に配付した資料1をお願いいたします。

北信地域振興局では、長野県農業農村振興計画の地域計画の発展方向に向けて、「未来につなげ！い」と地域が織りなす「北信州の食と農」をスローガンとして、2027年度まで計画的かつ戦略的に取り組む

ところでございます。

北信地域の農業の特徴をまずご説明したいと思います。

下の方に円グラフがございますのでご覧ください。

2020年の農業産出額ということで、ちょっと古いんですけども、傾向とすれば変わらないということで見ていただきたいと思います。

きのこが約5割、果樹が約3割、野菜と花きを合わせた園芸作物で約9割を占める園芸産地です。

県全体でも園芸品目の割合が高いのですが、北信地域は特に園芸作物に偏重している地域ということでございます。

生産額の構成では県10広域あるんですが、一番目が佐久地域で21、%次いで長野地域が17%となっておりまして、その次の北信地域促進地域も17%の割合を占めている、3番目に生産額が多い地域となっております。北信地域については、農業が地域の基幹産業であります。

次に昨年度の実績と今年度の計画についてご説明申し上げます。

事前に配布した資料2、3ですが、見比べるのもなかなか大変だと思いますので、本日配布しました当日資料1、2もお願いします。

初めに当時資料の1でございます。

これは計画期間中に、目的を達成するための指標の進捗状況でございます。

指標につきましては、六つの重点取り組みごとに10の指標を定めております。

それぞれの考えについては、先ほどの事前配付資料1に記載してありますので、あわせてご覧ください。

初めに重点取組の1「人材の確保と皆が憧れる経営体の育成」でございます。

まず一番目、中核的経営体ですが、事前配付資料の帯グラフをご覧ください。

こちらの2020年の4月ですが、館内の経営体数が6736経営体の約20%となっており、この中核的経営体が耕地面積の約4割を利用し、販売額で見ると551億円の約9割を、この中核的経営体が稼いでいるというような状況になっております。

一方で、高齢農業者が今後リタイアとか規模縮小ということが予想され、これらの方が使っている農地を、使えるうちに使いたい人に繋いでいくことが重要であり、中核的経営体にその農地を集積集約していくことが重要となっておりますので、この取り組みを進めているところでございます。

当日資料1に戻っていただきまして、24年度は1225経営体も育成すると目標を定めていたんですが、実績で1390経営体ということで、計画の最終年度の目標1250経営体の目標を既に超えている状況でございます。

続いて、その下新規就農者数でございます。

離農していく方を補完するために、最低でも全県で215人の新規就農者を確保しようと取り組んでおります。その215人のうち北信地域については31人を年間目標として確保しましょうということで取り組んでんですけども、昨年につきましては目標を大きく上回る53人の新規就農者が確保されたということでございます。

右端の備考の通り全県が191人ということで、215人の目標に対して目標が未達だったんですが、管内においては目標達成できたということでございますし、県下の約25%を北信地域で確保しました。

また、親元就農が多いというのが北信地域の特徴で、53人のうち37名、70%ということでございます。

県平均で見ると48%ということで、移住による新規就農者が多いわけですけども、北信地域については、

親の経営を引き継ぐ親元就農が多いということが特徴でございます。

続いて重点取組の2「環境にやさしい農業の取組とデジタル技術等の活用」でございます。

まず、化学肥料、化学合成農薬化学肥料のを原則 50%以上削減した栽培や有機農業に取り組む面積です。24年の目標 506 ヘクタールに、実績 475 ヘクタールということで、目標を達成していないという状況でございます。

長野県独自の認証、環境にやさしい農産物認証の申請面積が減った状況で、主に米の申請が多かったんですが、メリットが少ないということで今回申請が減ったということでございます。

ご存知の通り昨年来から非常にコメ不足で、わざわざ申請手数料と申請の手間をかけてまでやらなくても高値で売れており、申請が減ってしまったと分析しております。

次に農業用ドローンによる防除でございます。

55ヘクタールの目標に対しまして 51.6ヘクタールの利用実績があったということでございます。

ドローンによる防除につきましては、ほぼ目標通りの利用が進んでるってということなんですけども、やはりスマート農業機械そのものが高いうことで、買って導入するってところについてはまだまだこれからかなというでございます。

次に重点取組3「マーケットニーズに対応した北信の農畜産物生産強化」でございます。

果樹県オリジナル品種の栽培面積ですが、目標 524ヘクタールに対して実績 470.7ヘクタールということで、まだまだ達していないという状況でございます。

一番左端の現状 2021年 460ヘクタールに対して3年経過しましたが、10ヘクタールしか増えてない状況でございます。

上今井神前の遊水地の関係で10ヘクタールほど減少してしまったということも増えない要因になってるということでございます。

その下の野菜花き振興品目の栽培面積ですが、目標値を設定した統計手法が変わり、これに代わる何かの指標を設定しなくてはいけないなということで、とりあえずこちらについては算定ができていないということをご理解をお願いしたいと思います。

続いて重点取組4「農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり」でございます。

地域ぐるみで取り取り組む多面的機能を発揮するための活動面積ということで、計画面積 4192ヘクタールに対して 24年度については 4465ヘクタールということで、ほぼ計画通りにできたというような状況でございます。

続いて、重点取組5「安全安心で持続可能な農業・農村の基盤づくり」でございます。

農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備課所数ですが、計画7ヶ所に対して8ヶ所ということでございます。

続いて湛水被害から農村を守る排水機場のポンプ設備の更新機数について、目標0機ですが実際には昨年度から5機のポンプの更新に着手しており、目標年に向けてしっかりと成果を出していきたいと思っております。

続いて重点取組の6「食の地産地消の推進、次代への伝承」でございます。

直売所の売上高、目標 20 億円に対して実績では 25 億円です。なお、1 億円以上の売り上げのある直売所は管内に 7 直売所もあるということでございます。

コロナ禍を経て、やはり地産地消というものが見直されてきておりますし、直売所利用客が増えてきたという分析でございます。

続きまして昨年度の実績と本年度の計画についてご説明を申し上げます。

当日資料 2 をお願いします。

基本的に先ほど申し上げました重点取組ごとに必要な研修会やセミナーですとか、実証ほの設置に取り組んでおります。

また、昨年北信地区部会でいただいたご意見の回答と、あと特徴的なところだけお繋ぎしたいなと思っております。

1 枚目見ていただきたいと思っておりますけれども重点取組 1 の右端ですね。やはり中核的形経営体への支援で昨年頂戴したご意見の中に、担い手の結婚率を上げるようにしないとなかなか経営継承できないよと。要は、子供がしっかりと受け継ぐ土台を築くことが大事だご発言ありました。

ついでにはなかなか農業の現場ですと、出会いの場が少ないからそういった出会いの場を創出してほしいということで、そんなようなご意見を頂戴したところでございます。

人口減少対策という大きな課題に対しても重要なご意見で、細やかな結婚支援事業を展開してもらえるように県の所管部署であります次世代サポート課に意見を共有しております。

続いて、北信州農業道場、新規就農者についてです。

平成 20 年から各市町村、農業委員会、JA さん等と連携する中で、それぞれの持ち味を出しつつそれぞれが協力し合って、担い手の育成確保、新規就農者をしっかりと育てようということで、北信農業道場を展開しております。

今年度までで 777 名の方が卒業されたということで、これを引き続き時代に合わせながらカリキュラムを展開していきたいと思っております、昨年の次のご意見をいただいたところでございます。

農業従事者が減少する中で 1 戸当たりの経営規模を拡大するために、労働力の確保と作業のスマート化を進められたいということでありました。

労働力の確保につきましては、今の農業従事者での確保、家族労働というものについては極めてもう限界を迎えているという中で、多様な働き手を確保していくことが重要だと思っております、例えばこの障がい者を戦力とする農福連携ですとか、スキマ時間で働きたいというような方を雇用する 1 日農業バイトなどをしっかり紹介し、労働力の確保につなげていきたいと思っております。

農福連携につきましては農業経営者協会、農業者協議会の方に制度紹介をさせてもらって、障がい者を雇用するとなると、結構ハードルが高い部分もあるんですけども、良い取組み事例を作り、それを横展開していきたいと思っております。

あと 1 日農業バイトの活用に向けた動画も作成しましたので、この QR コードから見ていただければと思います。

続いて、取組み事項の 3 で昨年頂戴した意見の中で、地球温暖化で産地が移り変わってきているが、消費者が求めるものでないと売れない時代ですということをご意見を頂戴しました。

今年度、良食味で多収の新品種「にじのきらめき」について、もう実際に昨年度から農家さんが過去に種

を仕入れて栽培をしてるんですけども、これを県の方で種生産を始めるということで、北信地域がその種場となっております。

あと高温が予想される時期については緊急対応技術を発信していくということで、今年度も徐々に発出しているところです。

今ですね、肥料ですとか燃料が高騰していった、生産コストが上昇しているんですけどもそれに見合った価格での取引がされていないということもあって、国の方でそういったところを是正する制度を検討してるけれども、それに期待するというようなご意見ありました。

権利につきましても、まさしくそういった適正な、フェアトレードができる取り組みっていうのは重要なことだと思っておりますので、県の幹部職員が、昨年秋と今年春に、農林水産省の幹部職員に直接要請活動をやったところです。

それともう一点農業従事者が減る中で繋がり人口を増やすことが大事だという意見がありました。

農業従事者が減る中で繋がる人口増やすことが大事ということで、先ほどの労働力確保については1日農業バイトなどをしっかりと活用してくださいということをお願いしていますし、中山間地域農業直接支払事業これは第6期対策でしっかりと自分たちではなかなか農村コミュニティ活動ができないものについては、消費者ですとか関係者を交えて取り組む仕組み作りを支援しています。

最後です。

老朽化した乾燥設備等の再整備を早くする政策をお願いするというご意見を頂戴しました。

こちらにつきましては地元負担金の調整状況に応じて計画的に事業が推進、実施してますということでお願いしたいと思います。

令和8年にですね、令和9年に一部の更新事業と新規事業に着手する予定です。

統合整理事業につきましては要望も多く、計画取り組みの順番待ちということもありますが、できるだけ早く取り組みたいところでございます。

続いて重点取組の6です。

消費者に生産コストが上昇している農業現場の理解促進を図りたいという意見がありました。

先ほどフェアトレードの話ありましたが、消費者の方に農産物価格が上がると高いじゃないかっていう反発の声があるんですけども、消費者の方にも、いやそれが適正価格なんだよということを理解してもらってということも両輪でやっていかないと、適正価格というものが実現できないと思っており、しあわせバイ信州運動での取り組み、あとおいしい信州ふーどという形で、県下全体で取り組んでいる。

伝統食保存会などに若い人も入ってくるように、多くの人に伝統食を繋げる取り組み支援はできないかとの意見を頂戴しております。

本年度の新規事業で、地域における文化の伝承事業というものを作りまして、私どもの方が主体になって、伝統食を多くの方に知ってもらって、それぞれ継承してもらおうという事業をやっております。

こちらにつきましては農村生活マイスターさんと連携をしていながら今年12月ぐらいに開催を予定しています。

最後ですけども、旅館など地元等の農産物や農産加工品の利用拡大を図るため、農業者などから直接仕入れる取り組みを広域的に展開できないかというご意見がありました。

これは、長野県旅館ホテル組合と連携しまして、旅館側と農家側の確認し合う場を設けて、来年マッチングをしていきたいな、このような場を設定していきたいなと思っております。

こちらについても12月を予定しております、  
以上でございます。よろしくお願いいたします。

【上野委員長】

今、それぞれ細かく説明をいただきましたが何か聞きたいところがあれば、お願いします。

【齋藤重雄委員（以下、齋藤委員）】

基礎的なところですが、中核的経営体の概念について教えてもらってもいいですか。

【高橋所長】

認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織と基本構想水準到達者に該当する方です。

【齋藤委員】

大規模経営体とか担い手とか表現がいろいろあって・・・何を使えばよいのか迷う。言葉が非常に一般的でない。誰が聞いても分かるように修正していても良いのではないか。

【上野委員長】

他にもなんでも結構ですのでいかがでしょうか。

【塩崎仁志委員（以下、塩崎委員）】

ドローンのことですが、経費がかなり高いというがどのくらいでしょうか。

【高橋所長】

バッテリー容量やタンクが大きくなると400万ぐらいになってしまう。

それなりのものでも一式で200万とかになる。

【上野委員長】

他になければこの後意見交換ということになるので、そちらで頂戴したいと思います。

食と農業農村振興計画ですが、5か年計画の中間年ということでありまして、農業と農村、それから食と大きく3つに分けて構成されているということで、その柱ごとにご意見、ご質問をいただこうと思います。

まず最初に、農業振興ということで、青年部の役員をやっていただいている江原さん何かありますか。

【江原宏晃委員（以下、江原委員）】

私は9年前に移住してきて、妻の実家に親元就農しました。

この地域は生活のインフラとかだけでなく非常にいいエリアだと感じています。

先週農業士で山形県に視察に行きました。標高は同じくらいですが非常に暑く、りんごも着色が悪くな

っている。

こちらは夏場暑いとはいえ、それなりに下がってくれる。

新規就農する際に、生活面プラス立地や気象も非常に優れている地域だよとどんどんアピールしていいのではないか。

このあたりのメリットはこれから収納される方にとって非常に重要な情報だと思います。

あと、北信農業道場に変にお世話になった。これは今後もぜひ続けていただきたい。

新規就農者はあまり仲間というつながりがないので、積極的につながれる場を作っていただくと地域に早くなじめると思います。

労働力の確保に関して、私は使っていないが仲間で「おてつたび」をやっている人がいる。都会から来ていただく人の宿泊施設を自分で手配しなければいけないことが結構な負担になっている聞くので、山ノ内町の旅館さんとかと連携できないかと。

旅館業は5月末や6月は割と閑散期かなと思うんですが、我々はちょうど忙しくなってくる時期なので、お互いのためになるような関係性ができるとよいと思う。

あと、昨年農福連携をお試しでやってみた。

作業の棚卸とか我々も結構考えなければいけないところあるが、施設の方も一緒にサポートしていただけるので、意外と来ていただくことに関するハードルはそんなに高くないのかな、と感じました。

トラクターで起こしたシャクヤクの根っこを拾って片付けていただく作業をお願いしたのですが、そのような単純な作業には非常に有効なのかなと感じました。

#### 【斎藤委員】

新規就農について、先日上野さんも出席された会議で話題になったが、若い皆さんだけでなく、60歳くらいで定年退職して、それから農業をやる方もいる。

長生きになっているので、そういう人たちも戦力になる。

#### 【上野委員長】

定年退職就農には、小さな支援でもいいので、何かあるといいですね。

#### 【斎藤委員】

はい。

#### 【上野委員長】

人材確保に関連して。これから桃の出荷始まっていくが、昨日たまたまタイミーで共選所に来てくれた人が数人いたのですが、人がいっぱい来た時に限って1時間くらいで仕事終わってしまっただけ。

最盛期には本当に大変で必要なのですが、人材確保は難しい。

「おてつたび」と山ノ内町の温泉郷とのつながり、うまくできるといい。

次、西野委員さん、いかがでしょうか。

#### 【西野委員】

私は、農業はあまり大きくなく、加工所の方で、食の方で携わっている。

高齢化でどのようにつないでいけるか悩んでいるところ。

豊田中学に食品開発班というのがあって、地元の農産物を使って新しいものを作りたいというところがあって、新しいものも作っていききたい。

おやき、アップルパイ、季節の食材を使ったお弁当など、季節を感じる食材を使っている。

#### 【上野委員長】

同じ北信に住んでいても西野さんの地域、隣の地域が分からない。

隣同士にいても、シャクヤク農家のことをぶどう農家が分からないことも。

地産地消の取組みも含めて、知っていければと思う。

高齢化はなんといいいいのか・・・。

#### 【高橋所長】

高齢化し、そのまま離農してしまうと今まで使ってきた農地や販売ルートなどが無になってしまうことがもったいない。

新規就農者が辞める意向の農家に丁稚奉公みたいに入って研修して、技術を習得して、経営継承する事例も増えてきているが、トラブル事例もある。

いろいろ勉強しつつ、気を付けるところはどこかなどノウハウを蓄えていきたい。

また、農業大学校に進学する方の志望動機の中で、いわゆる小学生の頃に農業体験したからとかが多く、やはり重要なと思う。

やったことないことをやろうとはしないので、将来の選択肢を大きく広げる意味でも小学校の生徒さんとかに体験は増やしていきたい。

#### 【上野委員長】

最近の若い人にはいろいろやってみたけれど最後に農業で落ち着いた、なんてことも。

高齢化とはいえ、加工施設で地域の食材を使って作ることはできるので、長く続けてほしい。

では、行政の立場から中野市の牧野さん。

#### 【中野市 牧野課長補佐（以下、牧野委員代理）】

市では、農業が収入源として安定し、経営が安定するためにバックアップする施策を取っている。

国の支援を使えるところは使いたいポイント制が増えていて、その中でも女性が携わっていないとポイント取りにくい傾向で、採択されづらいのでその辺もカバーしていきたい。

産地パワーアップ事業をぶどう以外でも取組んでいるが、空白期間ができてしまうのでそこをカバーする事業、さらに災害に強い棚を維持するため市単独事業を作った。

また、少し前からスマート農業に対応した機器の購入補助、ドローンや山間部の急傾斜地もできるラジコン草刈機、SSの後ろに授粉用の装置などを支援している。

西野さんのおっしゃった地産地消では小学生の食育教室でおやきやアップルパイをやっていたいたり、市民の方を対象に、おいしいものは自分で作ろうとPRしている。

【上野委員長】

では、飯山市の小林課長補佐さん。

【飯山市 小林課長補佐（以下、小林委員代理）】

飯山市も中野市産と同様に国庫事業のポイントを取るところに苦慮している。

少し話題がそれてしまう農業生産施設、基盤整備が終わって50年経つところが増えてきている各地でそういった生産施設の手直しの要望が出てきている。

今後農業を継続、発展させていくためには非常に重要なことと思っておりますが、話し合いをしていく中で負担金が大きなネックになってくる。

時間の経過には勝てない。

今後の発展というところでご支援をいただきながら、市民に寄り添って活動を続けていきたい。

【上野委員長】

飯山の水不足は深刻。

10aに2～3cmの水を張るのに1000ℓのタンクが100個必要という話を聞いたことがある。

どれだけの面積があるか分からないけど、いずれはボタン一つで千曲川から田んぼへ水が上がってくるような施設を開発してもらえるとよい。

何かいい施策があればと思う。

2つめの「幸せで豊かな暮らしを実現する信州の農村」、これから農業と農村はまさに関連するものですが、そのあたりについてご意見、ご質問があれば。

個人的には農業がもうかれれば若い人も農業をやってもらえるのではと思っています。

儲からなければ誰もやってくれないので、まずは北信地域から若い女性が外に出ないよう、そのためには農業が儲かるように。

農業を主としてやっている若い皆さんが恰好いいな、なんて感じてしまうように。

流通面から塩崎委員さんいかがでしょうか。

【塩崎委員】

R&C ながの青果の塩崎と申します。

上野常務からもありましたが儲かる農業は市場の方も目指すということで、農家の方にお金を取ってもらって、翌年も作ってもらおうことだと思う。

弊社の目標として、いいものを流通させるということがある。

あえて漢字ではなく平仮名で「いい」と書いていますが、弊社の定義としては、消費者が求めるもので、かつ農業の発展に貢献するものとしており、こういうものを流通していこうとしている。

「マーケットニーズに応える信州農産物の生産」という項目につながるところですが、今までは何でも作って高く買ってくれというところも多かったかもしれませんが、これからは消費者ニーズのあったものを作っていないと続かない。

そこをマッチングすることが流通の役目だと思ってやっています。

それには生産者と産地、我々流通や JA、そして販売店等を一本につなげていくことが大事だと考えています。

農業でも生産者コストが上昇しているのです、ということばあって、消費者へも理解してほしいという言葉もあり、われわれもそのように努力して消費者へ説明もしているところだが、それに対する流通、販売もだいぶコストが上昇している。

物流、電気、人もいなくて人件費など高くなってきており、農業者へ還元するところまでいっていないところもある。

需要と供給のバランスもあるので一概に言えないが、消費者へも伝え、農業者と消費者をつなげていく役目をしっかり果たしたい。

#### 【上野委員長】

今は求めているものを欲しいときに欲しいだけ、送らなければいけない、欲しいんだけど余計に送るとちょっと前の葉物野菜みたいに値段が暴落したりと難しい。

食べ物だけでなくシャクヤクとか花も購入者の年齢層によって求める色とかが異なる。

大阪の市場に行った際に、前回来たらいいシャクヤクがあったからまた買いに来た、という消費者に会った。

一年中花・シャクヤクがあると認識している人もいて、生産者からも伝えていく必要があると感じた。

みんなが幸せで豊かに安全に暮らせる農村をというなかで、クマの痛ましい事故があったりしました。たまたま今日の新聞で、9月からは市町村がいいといえばクマを打てるようになるということですが、そうなのでしょうか。

#### 【高橋所長】

そのように変わるそうです。

ただ、行政も毎日張り付いていることもできないので、クマだけでなく野生鳥獣を見かけたときの追い払いなどは、地域の住民の皆さまにもやっていただき、三位一体となって対応をしていただきたい。

緩衝帯整備など近づかないような対策にくわえ、我々も支援させていただいている電気柵等もしっかりと取り組んでいただきたい。

一時期農作物被害額下がってきたが、また上がってきているので、しっかり対応していきたい。

#### 【上野委員長】

クマが出るから北信を出ていくなんて農村にはしたくないですね。

では、最後に「魅力あふれる信州の食」について。

西野さんのお住まいは豊田地区ですが、信州の伝統野菜ぼたんこしょうは作られていますか。

#### 【西野委員】

私は作っていませんが、加工所では取り扱っています。

ぼたんこしょうも高齢化で、加工所と同様に、あと何年作っていけるかなんて話題にもなっている。その地域で育てないと、伝統野菜と言えないということで、私の住む地域では伝統野菜とは言えない。他のところで作ると、辛いのと辛くないのが混ざってしまうなどばらつきがあって、やはりぼたんこしょうとは言えないですね。

地域でしっかり守っていきたい。

【上野委員長】

地域の食材、というのみゆきポークもありますが、斎藤さんいかがでしょうか。

【斎藤委員】

あまりマイナスの話もしたくないが、今日の新聞に松本食肉施設が閉鎖するという話もありましたが、みゆきポークの生産者も今は2件しかなく高齢化し、後継ぎがない。

水稲とか野菜とかと違って、毎日24時間みていかなければいけないということもあり、なかなか厳しい状況となっている。

せっかくブランドになってきたのだが。

【小林補佐】

J Aと一緒に取組んでいるが、なかなか環境面とか前に進められない現状。

せっかく確立された地域ブランドという大きなものでもあるので、これからも取組んでいくつもりですが難しいところです。

【上野委員長】

70代はまだ高齢とはいえないか？

(委員の皆さん笑い)

高齢というと80代後半からかな。

【斎藤委員】

先日別の会議でも上野さんと話をしたが、新規就農者が49歳以下となっているが、農業者の平均年齢が65~70なので、定年就農者という枠を考えても良いのではないか。

定年60以下を対象に、各市町村でも補助金等を新しく設定しやすいのでは。

人生100年と言われてますからね。

【上野委員長】

若い人は若い人で、別枠でもいいので設定があれば。

年を取った人も、60とか65の新規就農、ちょっと上げてもらえると入ってもらいやすくなりそうですね。

年を取った人の方が蓄えは多いかもしれませんが、49歳以下が10万なら6万とか、できればいいと思いますけど。

新規就農ということで江原さんは、Iターンで花を今作って何年くらいになりましたか。

【江原委員】

シャクヤクの栽培では5年くらいですね。

【上野委員長】

食べ物ではないですが、農業としてどうですか。

【江原委員】

いま農業士の支部でも、県農政に対して意見交換があり、農業に関する意見を取りまとめているところですが、ブランドを維持するためにはボリュームがダメだろうと話している。

次の世代につなぐために、いまのボリュームを少しでも維持、できれば拡大するのが守ることにつながると思っている。

そのためにスムーズな継承がカギになる。

畑はあらしてしまうと復帰に大きな労力とお金がかかってしまう。

例えば3年後には他の人に譲る、という先々の計画を出して、しっかりマッチングをしていくことがブランド維持につながるのではないかと支部のみんなでは話に出る。

いかに品質を落とさず作っていける環境づくりというのが行政やJAに取り組んでいただけると助かるかなと思います。

【上野委員長】

食べるものも見ると昔から一番大事なものは品質。

昔から品質管理が産地の命といわれている。

これは今後10年、30年、50年後も一緒。

品質管理だけはしっかりやっつけていかないといけない。

【江原委員】

物が少なく希少価値があるというブランドは一部にしか届かないし、意味がないとは言わないが、食べ物であれば安心安全なものが手ごろな価格で手に入るということがブランドとしては大事ではないかとみんなでは話している。

【上野委員長】

希少価値だけでなく、やはり高品質で安定してものがあることが大事。

中野のシャクヤクを頼めば間違いがないということがブランド。

100%とは言わないが、99.9%咲くのが中野のシャクヤクというのがブランドですね。

だいぶ時間にもなってきたところでもありますので、事務局側として三森局長さんから何かありますでしょうか。

【三森局長】

皆さまの積極的な意見交換、とても参考になりました。

技術的なことは農業農村支援センターと引続きやっていきたいし、観光との連携はまた別の部所にもなるので、つないでいければと思ました。

ありがとうございました。

【上野委員長】

いま局長さんからもお話ありましたが、ここだけの話ではなく、農業者と行政とで歩調を共有しながらもっとも暮らしやすい北信地域にできればと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは意見交換まで終了したということで、ありがとうございました。

議長を退任させていただきます。

【千野課長】

議長を務めていただきました上野委員長さま、ありがとうございました。

適切な議事進行をしていただき誠にありがとうございました。

また、皆さまには熱心に審議いただき感謝申し上げます。

本日いただきましたご意見ご提言につきましては、北信地域に限定されるものと、県全体で共有していくもの、他の部所と共有するものに整理させていただきます。

県全体に共有するものにつきましては、北信地区部会からの提言ということで、長野県食と農業農村振興審議会のほうに提出させていただきますのでご了承いただきたいと思います。

最後に次第にはその他の項目を乗せておりますが、事務局からはとくに用意しておりません。

もし皆さまの方から何かございましたらと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

これにて本日の議題はすべて終了いたしました。

以上を持ちまして長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会を閉会とさせていただきますと思います。

本日はありがとうございました。